

平成30年(2018年)1月4日号 (No.183)

「書く力が危ない」

伊丹市立総合教育センター
所長 後藤 猛虎

「新年 明けまして おめでとうございます」

本年も総合教育センターをどうぞよろしくお願いたします。

今、多くの大学が、日本語の文章の書き方を初歩から学ばせる取り組みに真剣に挑み始めているらしい。創価大学では、「文章作法」が1年生で必修だそうです。それは、「報告書も書けない学生を社会に送り出せない」



「小学生レベルの文章が見受けられる」ことに危機感を抱いたからです。また、玉川大学の中西 茂教授は、新聞社を受験する学生にさえ、400字以上、段落のない作文を書く学生がいたと嘆いています。そして、【言語活動の充実】が叫ばれている割には、学校で〈書く指導〉が増えていないのではないかと疑問を呈しています。

さらに教授の言葉は続きます。例えば、最近の小学校で、夏休みの宿題に「読書感想文の書き方」と題したプリントが配られる。指示どおりに「本を選んだ理由」「あらすじ」「心に残った部分」から「この本で学んだこと」まで、空白を埋めれば感想文ができてしまう。これでは、同じ構成の感想文しか出てこないではないか。また、これが夏休みの宿題に配付されるのは、日常の授業で十分な指導がされていない裏返しではないか。他にもプリントには、「段落の始めは、一マスあけましょう」ともあった。プリント1枚で指導が行き渡るなら、段落のない文章を書く大学生は生まれえないはずであると。

なかなか手厳しい意見ですが、小・中学校で書く指導が不十分だとは思いません。プリントがあることで感想文が書けるようになるのであれば必要かもしれません。プリント1枚で指導を丸投げする教師はいません。大学生の書く力が弱くなったのは、どうも社会の変化が大きく関わっているように思います。電子機器で話す・書く機会が増えたことが影響しているのではないのでしょうか。今や手紙を書く機会は、日常ほとんどありません。SNSによる短文や話し言葉の文章に慣れた大学生には、書くときに立ち止まり考えて文章を書く機会が減ってきているのかもしれませんが、しかし、そんな大学生をつくらないためにも、書く力は鍛えなければなりません。「書くこと」の領域の指導だけでなく、日常から書く機会をもっと増やしてほしいものです。書くことは考えること。書くことは伝えることです。これから求められる資質に繋がっていくのです。

参考資料：内外教育2016年(平成28年)7月15日号巻頭言
「段落のない文章」の重さ
玉川大学教授 中西 茂

ICT

を効果的に活用した授業例

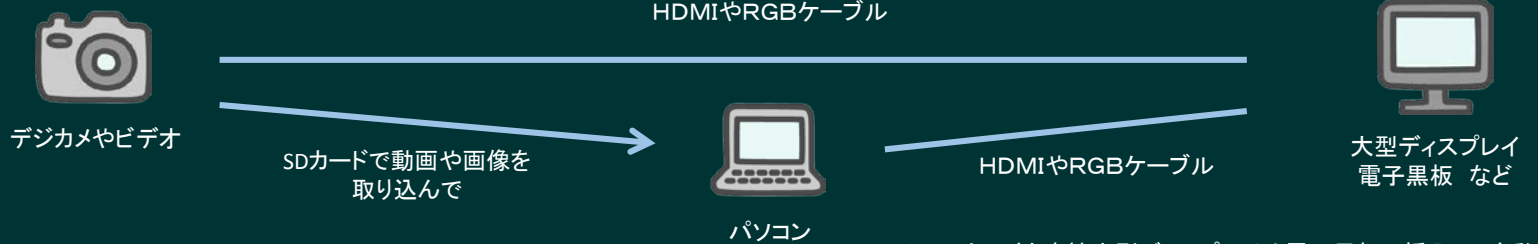
電子黒板・大型ディスプレイ・デジタルカメラ・パソコン・実物投影機・・・など、学校現場ではICTの整備が進んでいます。

しかし、授業でのICT活用の目的は、ICTの使い方を習得させることではなく、**各教科等の授業のねらいに迫る手段としてICTを選択し、活用すること**です。

様々な活用方法を知り、授業の中で最も効果的かつ効率的にICTを用いることができるようになります。



1 撮影した動画や画像を使うなら・・・



※ SDカードを直接大型ディスプレイや電子黒板に挿入しても動画や画像の視聴は可能です。

授業アイデア例

家庭科

動画を参考にして「まつり縫い」ができるようになる

- 「まつり縫い」の**示範**の縫い方の動画を事前に撮影しておく。
- 授業の初めに大型ディスプレイに動画を映して説明する。
- 作業中に、必要に応じて**児童生徒がPCを操作して確認**できるようにする。

理科

金属を変化させる水溶液について調べて、結果をまとめよう

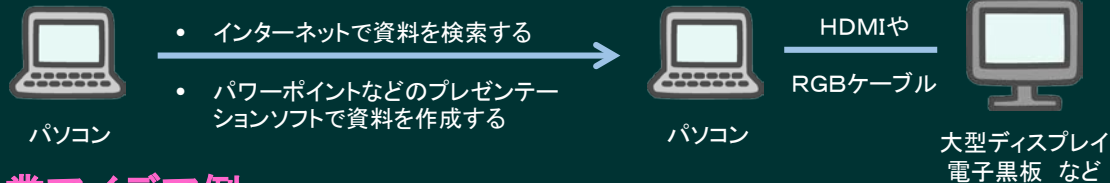
- 実験の準備物や準備の仕方、実験の手順と結果を事前に撮影しておく。
- 授業の初めに大型ディスプレイに動画を映して説明する。
- ふり返りで、実験結果を動画で確認する。その際、**スロー再生**や**早送り**を用いて、**目ではとらえにくい変化を確認し、理解を深める**。

音楽 体育

自分たちの姿を撮影した動画を見てふり返り、次の学習へつなげよう

- 体育・・・防水のデジカメで水泳の時間に水中姿勢を撮影する。
- 音楽・・・合唱の練習をしている姿を撮影する。
- 水泳では、足の動きや水中での姿勢など、合唱では口の開け方や表情など、**客観的に見るのが難しいことを確認する**。

2 インターネット上の動画や作成したプレゼンテーション資料を使うなら・・・



授業アイデア例

数学

プレゼンテーションソフトを利用して、練習問題に取り組もう

- 授業の初めに**繰り返し使う練習問題**をプレゼンテーションソフトで作成する。
- **フラッシュカードと同じように利用**でき、印刷する必要もなく、繰り返し使うことができる。

英語

著名人の有名なスピーチを聞き、音読や暗唱に取り組もう

- 有名なスピーチ(例: キング牧師の“I have a dream”)を歴史的背景が分かる資料と一緒に示すことができる資料を作成する。
- 児童生徒が**スピーチの練習**をする際に、より理解を深めることができる。

様々な教科 教育用動画サイト等を利用して、視覚的に理解を進める取り組みをしよう

- 授業中、必要に応じ、インターネットを通じて**教育用動画サイトの番組等**を視聴する。

『NHK for school』は70以上の番組で計2000話以上を配信していたり、**動画クリップ**をおよそ7000本配信していたりしている。 <https://www.nhk.or.jp/school/> NHK for school

3 実物投影機を使うなら・・・



授業アイデア例

社会

教科書の武士の屋敷の挿絵を拡大して、挿絵からわかることを共通理解しよう

- 児童生徒が挿絵を見て気がついたことを発表し、**挿絵に描き込んで**共通理解を図る。
- 前時までの学習の貴族の屋敷の挿絵に描き込んで保存しておいたものを示し、**比較**して考えさせる。

数学

分度器の使い方や目盛りの読み方を学ぼう

- 口で説明しても理解しにくい、**具体物の操作**などについては、**手元を大きくして教師と一緒に取り組む**と分かりやすい。
- 目盛りなど、見えにくい部分については必要に応じて**拡大**をして確認する。

美術 図工

友だちの作品を鑑賞し、友だちの視点を参考にして考えを深めよう

- 大型ディスプレイ等に映し出した児童生徒の作品について、意見の交流をする。
- **大勢で1つの作品を同時に鑑賞**できるので、具体的な意見の交流が可能になる。

書写 国語

筆の使い方や動きをよく見て書こう

- 教師の範書する様子を実物投影機で映し、筆遣いの特徴を知る。
- 児童生徒の作品を写し、**手本と比較**しながら注意するポイントなどについて説明する。



平成29年伊丹市議会（12月定例会）における質問

平成29年伊丹市議会（12月定例会）における、「小学校において来年から始まる道徳の教科化について」の質問趣旨及び伊丹市教育委員会の答弁を抜粋、要約して紹介します。

【質問趣旨】

平成30年4月から「教科としての道徳」が始まります。考え方の押し付けではなく、児童が話し合い、自ら考えることができるようにすることが必要だと考えるが、どのような道徳教育を実施されようとしているのか。



【答弁内容要約】（教育長答弁）

「道徳科」とは、一人ひとりの子どもたちが、明るくまじめに生きるために身につけなければならない**「生き方」に関わる教科**です。

大切なことは、自らの生き方に「問い」を立て、その「問い」について友だちなどと話し合い、友だちの意見を聞く中で、それまで当たり前だと思っていたことを考え直したり、見過ごしていたことに気づいたりする姿勢や、自分の思いや考えを表現しようとする姿勢を育てていくことです。

新たに「新学習指導要領」に示された**道徳の目標**には、「道徳的諸価値についての理解の基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、人間としての生き方について深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と示されております。

その「趣旨」を達成するためには、**どのような学習をめざしていけばよいのか**。児童生徒が、「授業が楽しい、おもしろい」と感じるのは、**しっかりと「考える」ことを通して、新たな気づきが生まれるとき**です。

そのためには、授業者は、教材や学習指導要領をしっかりと読み、ねらいとなる「道徳的価値」をきちんと理解しておくことが大切です。そして、「ねらい」に迫るためには、**「発問の吟味」とそれに対して「予想される児童生徒の反応を十分に考えておく」**必要があります。

何より、授業の山場に「道徳的価値」および自己の生き方について、考えを深めるための**「中心発問」**が用意されていなくてはなりません。

そして、授業者は、児童生徒との対話によって子どもたちから、さまざまな考えを引きだしたり、子どもたち同士で**議論**させる中で、自分の考えと友だちの考えを**比べたり、違いに気づかせたり**しながら、**自らの考えを深められる**ように展開していかなければなりません。このような活動を通して、はじめて子どもたちは、自分の生き方と重ねて考えられるようになっていきます。

新学習指導要領における指導の柱は、子どもたちが学びの主人公となる「主体的・対話的で深い学び」であります。道徳科では、「考え、議論する道徳」といった表現になっていますが、他の教科と同様に、道徳においても、教師が一方的に道徳的価値を指導するのではなく、「主体的・対話的で深い学び」、すなわち**「考え議論する道徳」**を実践してまいりたいと考えております。

発行 伊丹市立総合教育センター

月～金 9:00～21:00 所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番 TEL 072-780-2480 FAX 072-780-2482
土 9:00～17:00

休館日 日曜・祝日、年末・年始 総合教育センターHP <http://www.itami.ed.jp/>